

子どもたちに魅力ある教育環境を・・・学校適正化

全体地区懇談会 (R元6.26)

現在、小高区の小学校は、小高小学校校舎内で、「小高」「福浦」「金房」「鳩原」の4小学校が合同運営をしています。これは震災後の緊急的な対処法ですが、現状を解消し安定的な学校運営にするため、5月下旬に中部・東部・西部地区ごとに地区懇談会を開催し、小高区内の学校適正化について、地域の皆様からご意見を伺いました。

本日は、地区ごとに出されたご意見を区全体で共有し、魅力ある教育環境のご提案や、保護者アンケートの最新情報、適正化に係る今後の具体的な進め方をご説明いたします。

1 地区懇談会（5月下旬）でご説明した概要

市内・区内の少子化

【児童生徒数】

小学生：H18年度約4,000人
(小高区約700人)
H30年度約2,000人
(小高区約100人)
中学生：H18年度約2,200人
(小高区約400人)
H30年度約1,300人
(小高区約60人)

いずれ全小学校が複式規模

市学校適正化計画策定

文科省：H27.1指針
南相馬市：H28～H30年度
適正化検討委員会
(全12回開催)
→ H30.11 学校適正化計画策定
望ましい学校規模
小学校：21～25人/1学級
2～3学級/1学年
中学校：26～30人/1学級
2～4学級/1学年

仮に統合しても適正規模にならず

小高小中学校の沿革

- ・小学校...統合なし
- ・中学校...S47に3校統合

【主な理由】

- ・小規模化による教職員定数の減少
- ・広く対話を深める教育課程のため
- ・よりよい人間関係を確立...等

【S47当時の生徒数】

福浦中228人、金房中250人、
小高中405人

当時も小規模化の危機感

今後の進め方

令和3年度に適正
化する場合のスケジュール

7・8月 適正化検討協議会
9月～ 統合準備協議会
再編計画を策定
来年度 適正化の準備

旧校舎の跡地利用は

【使用可能な施設】

【福浦小】校舎・校庭
【金房小】校庭
【鳩原小】校舎・体育館・校庭

【使用困難な施設】

【福浦小】体育館・プール
【金房小】校舎・体育館・プール
【鳩原小】プール

地域と行政の需要を把握

魅力ある学校づくり...

小規模校のデメリット
を最小化しメリットを最大化！

【例えば】

- ・小中一貫教育、義務教育学校
- ・小規模特設校

→ 特色ある教育を採用

- ・大学との連携教育
- ・医療分野・工学分野
- ・英語分野...

子どもたちにとっての魅力を最優先

小学校保護者アンケート

統合について

1回目 (H31.3.1実施)
統合必要 70%
現状維持 15%
その他 15%
2回目 (H31.4.19実施)
統合必要 79%
現状維持 14%
その他 7%

現状維持の理由把握が必要

2 各地区懇談会でのご意見・ご要望

5/28 中部地区

- Q：統合のコストは？
A：望ましい形を検討し、コスト等を試算した上で、総合的に判断します。
- Q：子供の成長は早いので、スピード感をもって統合を急いで欲しい。
A：皆様のご意見を踏まえながら、スピード感をもって進めます。
- Q：中学生の親です。少人数のため部活動が制限されている。早く小中一貫教育にして練習だけでも6年生に参加して欲しい。
A：他市町村では小中学校混合で陸上（駅伝）をやった例がある。工夫すれば小中混合も可能と考えます。
- Q：現状は教員数が多く手厚いが、競争力が付くだろうか？手厚いだけでは必ずしわ寄せが来る。耐える力も必要だ。力が付く教育を！
A：メリットとデメリット双方を比較しながら進めていきます。
- Q：スクールバスについて、安全面ではメリットだが、街なかの賑わいや、放課後の活動が出来ないなどのデメリットも多い。それぞれに優先順位を付けて検討して欲しい。

5/30 東部地区

- Q：適正化しても児童数は増えないのでは？
A：現状は合同運営しているため、統合による増員は望めない。今後は特認制や小中一貫教育など、様々な魅力づくりで対応します。
- Q：統合による教員減にどう対応するのか？
A：市独自採用教員等でカバーしたいが、現状の大人数がずっと続くことはない。安定的な学校運営を考える必要があります。
- Q：福浦小がなくなるのはとても寂しい。卒業生の思い出をたくさん増やして欲しいが、統合はやむを得ないとも思う。統合するなら、学校の英語教育に力を入れて、卒業までにペラペラになるようにして欲しい。
A：子どもたちにとって何が一番良いのか、検討の上進めます。
- Q：統合には反対しない。しかし現状のスクールバスは存続して欲しい。
A：メリット・デメリット双方を検討して対応します。
- Q：4校の校歌を自然に歌う子どもたちを見ていると、これもアリかなと思えてきた。卒業式で歌う子どもたちを見てジンときた。
- Q：小中一貫教育の協議はどのタイミングから？
A：検討協議会で方向性が定まれば、その段階から協議を進めます。

5/31 西部地区

- Q：現状の4校合同運営は不自然。この状況を早く解消して欲しい。その上で小規模特認等を採用して欲しい。
A：一定の方向性は見えているため、皆様の意見を伺いながら慎重に進めます。
- Q：大学連携教育については、ふたば未来学園でも実施している。よくやる施策だが、成果はどう出るのか？成果を検証して欲しい。
A：教育の成果は出るまでに時間がかかります。成果が確認出来た時点で検証します。
- Q：これまでは特異的な状況で学校運営してきたと思う。早く統合し再スタートを。跡地利用は、休校中の使用できない施設は整理（解体）も考えていくべき。
A：地域皆様の意見と行政需要を踏まえ、解体を含め検討します。

小高区の4小学校については、震災後の緊急的対処である4校合同で運営しています。しかし、各校の小規模化が極めて進行している中、各校単独での学校運営を持続していくことは極めて困難です。

先日の地区懇談会では、多くの皆様から、学校適正化推進を望む声が挙がりました。その上で、単に統合をするのではなく、学校に魅力や特色などの付加価値を持たせ、「小高区の学校に通いたいと思えるような学校づくり」をして欲しいとのご意見を多くいただきました。また、学校施設の跡地利用についてのご意見・ご要望もありましたので、教育委員会だけでなく、市役所全体で検討を進めていきます。

3 小学校PTAが、保護者アンケートを実施しました

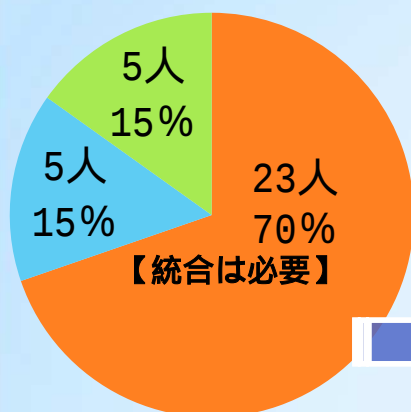
【設問 2】

今後の小高区 4 小学校の運営について
どう考えますか？

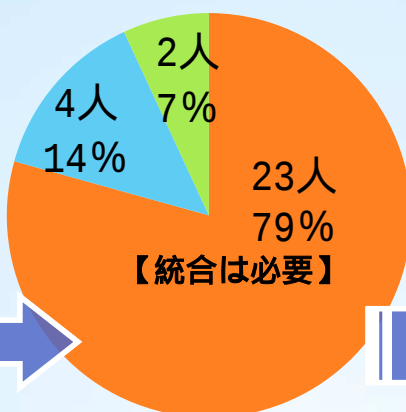
1回目 (H31.3.1)

2回目 (H31.4.19)

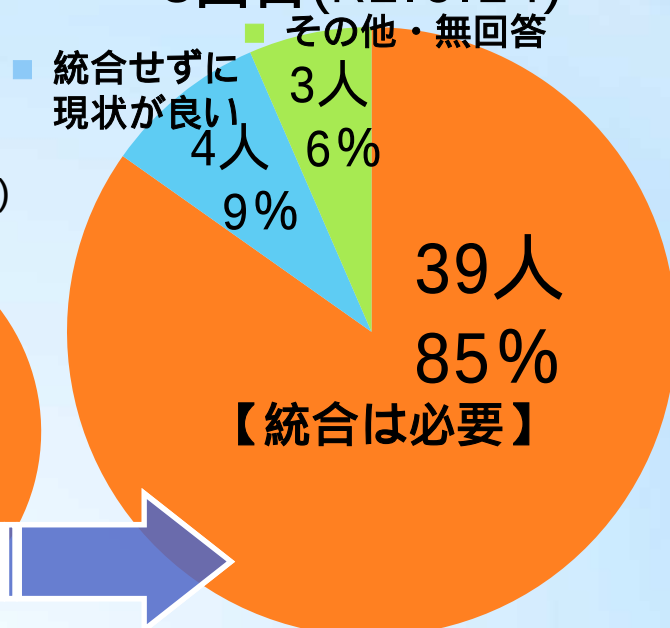
3回目 (R1.6.14)



回答数33人



回答数29人



回答数46人

【設問 1】お子様の学年は？

【設問 3】

「統合せずに現状が良い」を選んだ理由は？

学年	1回目		2回目		3回目	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
6年	9人	27%	7人	19%	12人	24%
5年	4人	12%	12人	33%	15人	29%
4年	7人	21%	6人	17%	9人	18%
3年	4人	12%	4人	11%	5人	10%
2年	5人	15%	4人	11%	5人	10%
1年	4人	12%	3人	8%	5人	10%
計	33人		36人		51人	

- ・小高区の学校は全て残して欲しい。
- ・それぞれの名前を残したいと言う人が多いのではないのでしょうか？
- ・母校で入学し母校で卒業したいから。

【設問 4】統合して残して欲しいこと、魅力ある教育環境についての要望は？

4 校の校歌：13人 小中一貫教育：12人
2 学級に 1 人の副担任配置：35人

【設問 5】ご意見・ご要望あればご記入ください。

- ・体操着も統合して 4 校一緒にして欲しいです。
- ・体操着は統一されるとして、在校生に新しい体操着を買うときの補助金が欲しい。
- ・小中一貫、中一ギャップの解消はとても大きいと思う。教職員同士のやりとりも増え、進級に伴う生徒の情報が把握しやすくなるし、学校運営の問題点を一緒に改善できる。デメリットは、生徒の人間関係がリセット出来ないの、いじめ問題があると関係解消が不可。生徒の人間関係を常に気遣えるのであればとても良い。
- ・教科担当制教育の導入。（中学校のように）
- ・担任・副担任制の維持が出来ればよい。今の小高の強みは複数の先生方の目が行き届いていること。
- ・地域の人たちとの農業学習。
- ・都市部から視察に来るような教育。
- ・子どもの希望をよく聞いてください。
- ・小中一貫と言われても、どのようになるのか想像がつかない。具体例が欲しい。

- ・中学校や高校のように、4 校の特別な曲を作っ
- て欲しい。
- ・4 小学校を合わせても少人数である今の現状。人が増えれば各小学校が再開するとしてそれがいつになるのか？再開するには震災前くらいの人数が必要。それはほぼ無理でしょう。
- ・小学校を残したいかどうかは親の意見であって、子どもの意見ではない。子どもの意見も聞くべき。
- ・統合に伴い、新しい学校名や校歌などの検討も必要では？また児童数確保のために、学校の特色を活かして、学区外からの児童取り込み等も具体的にしていって欲しい。

保護者の皆様の真剣なご意見
も参考にしながら、適正化に向け
て協議してまいります。

4 学校の魅力化で出来ること

地区ごとに開催した地区懇談会では、持続可能で安定的な学校運営のため、**学校適正化の必要性があること。**

**小高区4小学校の場合、仮に統合しても適正規模にはならないこと。
適正化には学校の魅力づくり・特色づくりがポイントとなること。**

をご説明してきました。

ここでは、学校の魅力づくりの部分で、いくつかの例をご説明します。

・小中一貫教育

小学校と中学校の教育課程を調整し一貫性を持つ体制の学校。それぞれの学校に校長と教職員組織がある。カリキュラムや運営が柔軟に運用できるため、中学校の慣習的制度を小学校段階に早期化し、小中学校間の境（いわゆる中一ギャップ）解消が可能。

・義務教育学校

初等教育6年と中等教育3年の計9年間の教育課程を一体化させた、小中一貫教育が可能で、小学校にも中学校にも属さない新たな学校種。校長が1名。2016年4月に制度化。

・特認校制（小規模特認校）

学校選択制の一つ。学区に関係なく、市町村内のどこからでも通学を認めるもの。特色ある教育を採用し、学区外からの通学者を見込んでいるが、学区外者の通学手段は保護者責任が条件。

魅力化の例 1

【特色あるカリキュラム】

特定の科目について、授業の内容、回数、開始学年等の調整・特化

例：小学校で英会話に特化した授業・ALTの専属等

例：各種検定等への積極的な受験を想定した指導。

（英検・漢検・数検・数学ジュニアリビック等）

例：市独自採用教員による授業

魅力化の例 2

【特色ある部活動】

運動部の種類を限定し、他校にない特化した指導

例：中学女子サッカー採用。実績のある外部指導者の採用

例：中学校部活動に小学生から参加する。（練習のみ）

魅力化の例 3

【特色ある地域活動】

地域産業に密着したキャリア教育の特化

例：地域農家と連携した本格的な農業体験活動。

例：地域企業とタイアップしたプロジェクト活動。
福島ロボットテストフィールドの活用によるロボット人材の養成。

魅力化の例 4【高等教育との連携】

大学等の様々な専門知見を活用し、学校のリクエストに対応した教育分野の特化

例：医療分野（病気・免疫・がん教育、脳科学、医師、看護師、保健師へのキャリア教育）
工学分野（数学者になるには？）、ロボット・プログラミング教育、放射線教育等

5 今後の進め方

